

ハモコミ通信は①②と毎月2回、メール配信させていただいております。①のほうはホームページでも公開しておりますとおり、A4版1枚のペーパー版も作っています。何かを郵送するついでに同封するようにしています。

HP上のバックナンバーも、このペーパー版のみ都度公開しており、②のほうは1年分まとめたの公開とさせていただいております。

遅くなりましたが、2019年②特集、どうぞお楽しみくださいませ。

ハモコミ通信 2019年1月号②

<まちネタその1>

◎ 人望あるリーダー像

政治史や政教を記した中国最古の歴史書「書経」には、古代中国を治めた天子や王、参謀の言葉や経験が記されています。

その中で、リーダーに求められる9つの条件が述べられています。

1. 寛容でありながら厳しい一面がある。
2. 柔和でありながら芯が通っている。
3. 慎重でありながら物事の処理が機敏。
4. 有能でありながら相手を見下さない。
5. 従順でありながら意志が強い。
6. 直情でありながら心は温かい。
7. 大まかでありながら筋は通す。
8. 決断力に富みながら思慮深い。
9. 行動力がありながら善悪のケジメはわきまえている。

「寛容さ」と「厳しさ」のように、相反するような資質が併記されているのは、臨機応変さとバランス感覚が求められているということでしょう。

組織の充実や活性化を図る上で、必要不可欠な存在がリーダーです。

そのリーダーは、ただ形だけが存在しているのでは意味がありません。

いずれかの1項目でも意識して、人望を高めていきたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

確かに一国を治めるほどの人物はこうあってほしい、という人物像ですね。時を経てなお通じる条件です。

この時代の中国の人口はどのくらいだったのだろう……。

一説によれば500万人前後とか。

そのくらいの人口がいればこういう人物が出てきてもおかしくないと思います。

世界中のリーダーが「こう」だったらいいですね。

しかし、実際には様々な要因により、「そう」じゃない人がなっちゃってきているのが現実でしょう。

一国のリーダーというと大上段過ぎますので、身近なリーダーに話のレベルを近づけてみましょう。

私達はグループのリーダーであったり、役割の中でリーダーシップを発揮しなければならない場面も多々あり、誰もがリーダーと言えますね。

上記9つの条件の中で、従順という言葉が少し引っ掛かりますが、「使命感・理念・想い」に対しての従順さということでしょうか。

それがハッキリしていればこそ、その他の面が必然的に上がっていくのだと思います。

心の真ん中にどんな想いを据えるか。

<まちネタその2>

◎ 過去を捨てるだけからの脱却

T氏が2日間の宿泊会議を終え、駐車場に戻った時のことです。車の後部座席にあるはずの物がなくなっていたのです。

紛失してしまった物の中には、手書きで綴った17年分の経営計画書もありました。

T氏は《俺の17年分の苦勞が…》と頭の中が真っ白になりました。

そのことを大学生の息子に伝えると、「過去を捨てるということだよ、父さん」と言われ、《父親を納得させることを言うなんて…》と、息子の発言を誇りに思ったのです。

絶望から一転、気分をよくしたT氏は、一連の

経緯を先輩経営者に伝えました。

「さらに加えると、17年間のあなたの経営者としてのあり方を問いただされているんですよ。小さな会社の中で、社員より先に自分が率先して取り組みましたか。そうした自己のあり方をこれからは正していきなさい」と言われたのです。

先輩経営者の言葉に合点したT氏。

単に会社を運営するノウハウではなく、経営「人（ジン）」としてのあり方を問いただすきっかけになったといいます。

その後T氏は、経営理念をも変革し、新たな事業展開へのきっかけとなりました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

息子にも先輩経営者にも合点するT氏。

根がとても素直な方なのでしょう。

人は自分を守りたい一心で、まわりに壁をつくりがちですね。

せっかく聞こえてくる金言が右から左に流れていきます。

感性論哲学の芳村思風先生は、「答えを持ちながらも答えに縛られない生き方」というものを勧めていらっしゃいます。

浮き草のようにふらふら人の意見に振り回されるのではなく、自分はこうだ、という凝り固まった考えにこだわりすぎるでもなく、澄んだ心で「あり方」を見つめていく。

そういう心持ちでいる時、素直に金言が入ってくるのでしょう。

そんな1年にしていきたいですね。

~~~~~

< 編集後記 >

仙台七福神巡りというコースがあります。

福祿寿（医王山 鉤取寺）⇒布袋尊（南谷山 福聚院）⇒毘沙門天（金光山 満福寺）⇒弁財天（天総山 林香院）⇒大黒天（喜伝山 秀林寺）⇒壽老尊（喜福山 玄光庵）⇒えびす神（えびす神社 藤崎百貨店屋上）

先週の日曜日、この約17kmのコースを20名ほどのラン仲間と共にジョギング。

途中、延命餅を食べたり、鯛きちのたい焼きを食べたり、ワイワイ楽しく「意宣」をささげてきました。

えびす様が藤崎百貨店の屋上にあることはご存知でしたか？

常に行けますので、興味のある方はどうぞ。

## ハモコミ通信 2019年2月号②

<まちネタその1>

### ◎ セロハンテープの気持ち

Yさんの職場では、共用の物が使われた後、元に戻されていないことがしばしばあり、問題になっていました。

そんなある日、Yさんが共用のセロハンテープを使おうとすると、付箋（ふせん）が貼り付けてあり、その付箋には次のように書かれていました。

「私はセロハンテープ。いつも大切に使用してきてありがとうございます。使い終わった後、元の場所に戻してくれると嬉しいな」

「使った後、ちゃんと戻してください」ではなく、戻したくなるようなその文言に感動し、Yさんは使用後、気持ちよく元の場所に戻しました。

それをきっかけに、共用の物が使いっぱなしにされることが少なくなったといいます。

職場内でルールを設けることは、組織を管理する上で大切なことですが、それが守られなかった時に、思わず人を責める心が出てしまいがちです。

快適に働くためにも、できないことを責めるのではなく、どのようにしたらできるようになるのかを考えながら、職場作りを工夫したいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

脅すでもなく、報酬をちらつかせるでもなく、思わずそうしたくなるように仕向ける。

これは人を動かす最良の方法ですね。

手書きの付箋っていうのが何ともほっこり感じられたことでしょう。

効率のみを追求して、カリカリ仕事をしていてはゼツタイに浮かばないアイデアです。

職場作りの工夫。

それはまず「そうしたい」という気持ちがあ  
って始まります。

そういう気持ちがあること自体がすばらしい  
ですが、時々こういうコラムに触れて、遊び心  
も取り入れたいですね。

<まちネタその2>

## ◎ してはいけない五カ条

1973年にノーベル物理学賞を受賞した江崎玲  
於奈氏は、自身の経験を通して、「ノーベル賞を取  
るために、してはいけない五カ条」を述べていま  
す。

1. 今までの行き掛かり(しがらみ)にとらわれて  
はいけない。
2. 大先生にのめり込んではいけない。
3. 無用ながらくた情報に惑わされてはいけない。
4. 自分の主張をつらぬくためには、戦うことを  
避けてはいけない。
5. 子供のようなあくなき好奇心と初々(ういう  
い)しい感性を失ってはいけない。

この五カ条は、物理学の分野での発見や独創的  
な研究成果を挙げるための心得ですが、職場人にと  
っても、心に留めておきたい言葉ではないでしょ  
うか？

たとえば、5の「好奇心」「初々しい感性」など  
は、一般的には、年齢と共に薄れていくといわれ  
ます。

日々の仕事や家庭生活に追われる中でも、少し  
視野を広げてみれば、心が躍るような未知の事柄  
に出合えるはずです。

この五カ条の中から、自分なりの課題をつかん  
で、それぞれが人生のノーベル賞を目指してはど  
うでしょうか。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

それぞれが「人生のノーベル賞」を目指す、と  
いう文章が目を引きました。

『プロフェッショナル仕事の流儀』に限りま  
せんが、その道でノーベル賞級の活躍をされて  
いらっしゃる方はたくさんいると思います。

ノーベル賞級とまではいなくても、ほとん  
どの仕事人は、何とかよりよく、という気持ち  
でやっているといっていいいでしょう。

一方で、がんばってはいるが、どうも同じパ  
ターンの中で、自分が「これでよし」と思い込ん  
でいる枠の中で一生懸命、従って得られる結果  
もありきたり、という現実はありませんか？

この五カ条が枠を超えるヒントになるかどう  
かわかりませんが、一度自分流をふり返ってみ  
る(疑ってみる)のもいいと思いました。

私自身もこの五カ条、いずれもその逆の面で  
少しずつ当てはまっています。

今からでもきっと遅くない。

このコラムに出合ったのも何かのご縁でしょ  
う。

初々しくやっています。はないにしても、  
旅行の最中はハプニング大歓迎。

その状況下でいかに楽しむか。これぞまさに  
旅の醍醐味。楽しむと決めてしまうと、方法が  
後からついてくる感じ。いろいろ調べたこと  
が助けとなることも多いですね。

このコラム筆者がおっしゃるように、こうい  
う姿勢は様々な場面で共通かもしれませんね。

~~~~~

< イベント情報 >

秋田県仙北市に本拠地をかまえる劇団わらび
座。

ご存知の方も多いと思います。

ワケアリで新作ミュージカル「北前ザンブリ
コ」を応援してます。

北前船でひと稼ぎしようと乗り組んできた血
気盛んな喜一青年。

しかし様々なトラブルに巻き込まれ、散々な
目に。

「北前船はただ荷物を運んでいるわけじゃね
え。人の思いといのちをつなげていく仕事なん
だ！」

弥三郎の魂の言葉によって、心の成長を遂げ
ていく喜一。

そして・・・冬こそミュージカル！

普段がんばっている自分へのご褒美に、自分
の財布で(笑)、自分へプレゼントはいかがでし
ょうか。

月曜日なので仙台近郊在住の方に限られます
が、行ける方はぜひ足をお運びくださいませ。

~~~~~

### < 編集後記 >

20年前に仲間と立ち上げた地域のおやじの会「黒松パネット」。

今でも続いているのはうれしいことです。

当時小学生のお父さんたちに声がけし、多彩なイベントを次々企画実施して、誰よりおやじ達が一番楽しんでいました。

いつしか子どもたちも皆大きくなり、当時の子どもたちが親になっている事例も珍しくなくなりました。

イベントに参加することはなくなりましたが、先日久しぶりに現役世代の方々と往時のメンバーの交流会で20年前の思い出を語り合い、旨酒を酌み交わしました。

## ハモコミ通信 2019年3月号②

### < まちネタ >

今回は長いので1話だけです。

### ◎ 母とコロッケ

あれは小学四年、夏休みのことである。

もう五十年も前のことなのに今でも私はコロッケを見るたび母を想う。

あの昼飯時、無言で耐えてくれた母の姿から、私は大きな教訓を学んだ。

業界で、「あいつは口の堅い男」と私を評価してくれる向きもある。

だとすれば、母の教えが現在も生きているのである。

戦前の食生活、それは貧しいの一語に尽きる粗食だった。

カツ、コロッケ、バナナなど、いま常食になっているものさえめったに食卓にはのぼらなかつた。

麦飯に漬物、これが農村の年間メニュー、現代のヤングには理解しがたい一面であろう。

貧乏だったわが家もそれ。

私は、その日のことがあるまでコロッケに大き

な願望を抱いていた。「一度でいいから食ってみたい」と。

その日、私は街に用事のある母に連れられて一緒した。

帰り道のこと肉屋の前にさしかかると、いい匂いが漂ってきた。

見ると、コロッケを揚げている。

「かあちゃん、コロッケ買って！」

私はほとんど衝動的にせがんだ。

母は私をチラッと見ながら、

「そんなムダ遣いしたら父ちゃんに叱られるじゃないか。さ、帰ろ」

と私の手を引いて行きかけた。

「いやだあ、一回でいいからコロッケが食いたいよ、かあちゃん」

この声に母の足が止まった。

私の顔をのぞき、その視線を店先へ移した。

「清次、そんなに食いたいのかい？」

「うん。学校で食ったことのないのはオレだけなんだもの」

「……」

母の思案している気持ちが、つないでいる手の温もりを通して私に伝わった。

「コロッケなんか買ったら父ちゃんの雷が落ちるんだから。母ちゃん知らないよ」

そういう母だったが、足はもう店頭へ歩きはじめていた。

その日の昼飯時がきた。

母と五人きょうだいが膳につき、父も座りかけた。

私は、コロッケが食べられる幸福感と、起こるであろう父の怒りへの恐怖が入り交じって、体を堅くしながら食卓と父を見比べた。

「なんだ、このお菜（さい）は！」

膳を見るなり父の怒声が母へとんだ。

食卓には、コロッケの盛られた皿と、漬物が山盛りの大ドンブリが並んでいる。

私は反射的に母を見た。

清次がうるさく言うからしかたなく、の母の言葉が当然出ると覚悟した。

だが、母は無言、うつむいたままだ。

「……」

「何て考えなしの買い物をする！メザシでも買ったらよかったのに。こんなぜいたくする銭は、うちにはねえ」

父は声を荒げて母をなじった。

うつむいたままの母が言った。  
「いくら貧乏してたって、たまには他人様の子が食ってるもんぐらいは食わして……」

小声で語尾は聞き取れなかったが、私のことはおくびにも出さなかった。

父はなお、くどくど言い募ったが、その後の母は視線を膝に落とし口をつぐんだままだった。

途中から、私は母にむしゃぶりついていきたい衝動が、心いっぱいにあふれてきた。「かあちゃん、ありがとう」と。

父の怒りもやっと静まり、みな箸を取った。

生まれて初めてのコロッケのうまかったこと。  
あの味覚はいまも鮮明におぼえている。

食事は終わった。

「みんな、うまかったかい？」

母は優しいまなざしで私らを眺めながら聞き、視線を私にとめて言った。

「清次、うまかったろ！」

母の目が、笑っていた。

この小さな出来事は単に忘れられないにとどまらなかった。

私の成長につれ、出来事もまた心の奥で発酵し、熟成し、現在、私の処世に欠くことのできない美酒となって芳香を放っている。

子供のころは、母ちゃんが黙ってくれたので叱られずに済んだ程度にしか考えなかった。

だが、年が経つにしたがって、出来事は深さも重さも増してきた。

“告げ口はすべきでなく、相手の側に立って、言う言わないを決める。これが信頼の基本だ”

というふうに育ってきた。

結婚し、子を持ってみて、“無言”の大切さは身に沁みて心に根付いている。

「清次、うまかったろ！」の母の一言は、私にとってどんな名曲を聴くより感動的な響きを秘めている。

まもなく還暦を迎える今でも、コロッケを見るたびに、無言の母の姿がまぶたにくっきりと浮かび、胸を熱くするのである。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

多くのコメントは不要でしょう。

時代だ、とか、貧しいとか貧しくないとか、そういう問題ではなく、その人に芯(信)があるかないか。

基本的には頭(かしら)である“父”を尊敬信頼し立てながら、子を愛情深く守り育てた強い芯を持った母親。

目頭が熱くなります。

~~~~~

< 編集後記 >

おかげさまでこのハモコミ通信は2004年4月が創刊号なので、来月で15周年を迎えます。

来月から記念企画をいろいろ考えているところです。

乞うご期待。

来月号で改めてご挨拶をさせていただきますが、皆様からの励ましの言葉を頼りに続けることができました。

心より感謝を申し上げますと共に、これからもどうぞよろしくお願い致します。

ハモコミ通信 2019年4月号②

<まちネタその1>

◎ 長所と短所

人は誰にでも、長所と短所があります。

慎重な性格の人は、細かい部分まで気をつけて注意深く物事を進めますが、反面、一つの物事に時間をかけ過ぎて、スピードが遅いという点があります。

Nさんは、慎重な性格です。

2日後までに商品の発送リストを作るように上司から頼まれましたが、発送ミスがないようにと慎重になるあまり、時間がかかっています。

予定通り仕上がりそうにないため、その状況を上司に報告しました。

「仕事が遅い」と怒られると思っていたNさんでしたが、上司から「ミスのないように、物事を慎重に進めるのはNさんの良いところだね。次の機会は、時間を意識して作業をしてください」と言

われました。

慎重であることを長所として認めてもらったことで、Nさんは、《 今後は進めるスピードを意識して仕事をしていこう 》と思いました。

人は、短所を指摘されて直すように言われるより、長所を認められることで、さらに伸びる場合があるようです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

この上司のように、具体的な良い点を指摘しながらまず褒めて受け止める、というのは上級ですね。

「何でもっと早く言わないんだ」とか、「スピードを考えてやってもらわないと困るんだよねえ」など、ネチネチ言っちゃいそうです。

上司の反応次第で、このコラムの例のように、次へのやる気がみなぎる場合と逆の場合に分かれてしまうのですから恐ろしいものです。

まだまだ修行が続きます。

<まちネタその2>

◎ ひと声の親切

駅や街中で外国人を見かけることが多くなりました。

5年前に約1000万人だった訪日外国人数は、昨年は約3100万人と、3倍以上に増えています。

東京都内に勤務するEさんは、通勤の車内や駅で、よく外国人観光客を目にします。

混雑する車内に大きなスーツケースを持ち込んだり、改札前で右往左往する姿に困惑することもありました。

ある朝Eさんは駅のホームで、大きな荷物を持って困っている様子の外国人家族を見つけました。乗る電車がわからないようです。

すると一人のビジネスマンが近づいて日本語で声をかけ、身振りや筆談でその一家を案内し始めました。

ビジネスマンと別れた外国人家族は、不安そうな顔が一掃され、にこやかな笑顔で電車に乗り込みました。

その光景をととても清々しく感じたEさん。今まで、英語が話せないからと理由をつけて手助けを

しなかった自身を省みました。

困っている人を見かけた時、相手の国籍にかかわらず、手を差し伸べられる自分でありたいと心を新たにしたEさんです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

筆談をした、ということであれば中国系の人だったのでしょうか。

じゃあ、ベトナム人やタイ人だったらどうするの？

このコラムにあるように、相手が何人だろうと、何とか助けてあげようという気持ちさえあれば、日本語だけで何とかなるものです。

技術というよりも、忙しいふりをして素通りする自分が容易に想像できるのが、このコラムを読んで反省した点です。

都会であればあるほど、誰かがなんとかするだろう、という発想になってしまいがちですね。それこそが冷たい社会。

どんな社会が望ましいか、そんなことも考えながら仕事をしているつもりでいても、生活の中でやらないのでは、片手落ちです（反省）。

さて、次のコラムも関連しているので、今回は3つとしました。

~~~~~

#### <まちネタその3>

### ◎ 伝わる言葉

ここ数年、日本に定住する外国人が増えてきました。また、海外からの技能実習生が働いている企業も多いことでしょう。

日頃、私たちが仕事で何気なく使う言葉の中で、敬語や長めの文章、漢字の熟語、カタカナなどは、外国人には理解しにくいようです。

外国人とコミュニケーションをとる場合、相手に伝わるように話すことや《相手に伝えよう》という気持ちを持つことは大切でしょう。

具体的には、①ゆっくり、はっきり、短い文で話す、②言葉を繰り返す、③理解できたか質問をす

る、④文末を「～です」「～ます」「～か？」と、ハッキリ言い切る、などを会話の際に意識します。

日本人特有の言葉遣いは、相手の気持ちに配慮した奥ゆかしさがあります。

しかし、外国人にはなかなか理解できないものです。

外国人と会話をするには、自身の意思をはっきりと相手に伝える勉強にもなります。

コミュニケーションに磨きをかけ、お互いに成長していきたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### <コメント>

これはつまり日本語のようである日本語じゃない、というか、外国語の骨格を持った日本語でのコミュニケーション、とでもいうのでしょうか。

確かに、スタイルが外国語的（ストレートな表現）になると、カタコトコミュニケーションにおいては伝わりやすくなりますね。

そういうテクニックを意識しつつ、日本人としての美意識も交えながらコミュニケーションができれば花マルじゃないでしょうか。

~~~~~

< 編集後記 >

今年のGW、アルバイトの争奪戦というニュースをやっていました。

それぞれ計画がとおりかと思いますが、行楽地は相当混みあいそうですね。

私は会社と自宅の5Sを楽しみたいと思います。

ハモコミ通信 2019年5月号②

<まちネタその1>

◎ 令和元年にあたって

去る4月1日、「平成」に代わる新元号は「令和」と発表されました。

「令和」は、現存する日本最古の歌集である「万葉

集」巻五の「梅花（うめはな）の歌三十二首并（あわ）せて序」の以下の文からの引用です。

「初春の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和（かぜやわら）ぎ、梅は鏡前（きょうぜん）の粉（こ）を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香（こう）を薰（かお）らす」

新元号には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められています。

「美しく心を寄せ合う」という文字から、皆さんはどのようなことを思い浮かべるでしょうか。

例えば、「ありがとう」と感謝する心、「大丈夫ですか」と相手を気遣う心、「一緒にやりましょう」と励まし合う心などがあるでしょう。

これから、「令和」の時代を生きていくにあたり、時には立ち止まり、新元号の意味を思い起こしたいものです。

そして、希望を胸に行動に移していきましょう。物事は、願うだけでは成就しません。

自分一人の力では成し得ないことでも、多くの人が未来に向かって行動を共にする時、何かが変化することでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

新しい元号の下、何かを心に誓い、新たな一歩を踏み出している人が少なからずいると思います。

コラムの最後の一文で、その力は小さくないと言っていますが、まさにそのとおりではないかと感じています。

筑波大学名誉教授で遺伝子研究者の村上和雄氏によると、この世に人間として生まれ出る確率は、ジャンボ宝くじ1億円を100万回連続で当選する以上に奇跡的だそうです。

そんな奇跡的な命の使い方として、他人との争いに終始したり、小さいことでくよくよ悩んだり、自分だけの喜びで満足してはいけないように思います。

みんなが良くなる。そういうことを願ってきたのが日本人ではないでしょうか。

美しく心を寄せ合う行動を、どんどんやっていきましょう！

<まちネタその2>

◎ 看脚下(かんきゃっか)(藤尾秀昭氏のコラムを

一部抜粋)

看脚下は禅語である。

脚下(あしもと)を看(み)よ、という教えである。

自分の足下がどうなっているかを見ないで、新たな一歩を踏み出すことはできない。

(中略)

単に足下を見るだけではなく、いまここで何をしなければならぬかを知り、それを実践することが看脚下の真意なのだと腹に沁みた。

これに関連して思い出す話がある。教育者東井義雄氏がその著「自分を育てるのは自分」に書かれている話である。

大島みち子さんという女性がいた。子供の頃は頭もよく、体も健やか、本当に可愛い、いい子だった。

その大島さんに異変が生じたのは高校に入った時だった。

顔の軟骨が腐るという難病にかかったのだ。

その治療のため、高校は5年かかってようやく卒業した。

彼女は京都の同志社大学文学部に進学。だが、病気が再発、長い闘病生活となる。

その間に河野誠さんという学生と知り合い、手紙を取り交わす間柄になったりする。

この大島さんが書き残した文章を集めたのが「若きいのちの日記」という本。

東井氏はこの本に、いまここで何をなすべきか、人間としてもっとも大事なことを教えられたという。

大島さんは書いている。

「病院の外に健康な日を3日ください。1週間とは欲張りません。ただの3日でよろしいから病院の外に健康な日がいただきたい」

「1日目、私はとんで故郷に帰りましょう。そして、お爺ちゃんの肩をたたいてあげたい。母と台所に立ちましょう。父に熱燗を1本つけて、おいしいサラダを作って、妹たちと楽しい食卓を囲みましょう。そのことのために1日がいただきたい」

「2日目、私はとんであなたのところへ行きたい。あなたと遊びたいなんていいません。お部屋を掃

除してあげて、ワイシャツにアイロンをかけてあげて、おいしい料理を作ってあげたいの」

「3日目、私は一人ぼっちの思い出と遊びましょう。そして静かに1日が過ぎたら、3日間の健康にありがとうと、笑って永遠の眠りにつくでしょう」

自らの人生を看脚下し、見事に生きた人の姿をここに見る。

若くして逝った女性の生き方に倣(なら)い、私たちも自らの看脚下を深めていきたい。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

涙なしには読めないコラムでした。

そして、心を澄まさせられるものを感じました。

私たちが何気なく過ごす1日と大島さんが思い描いた1日。

その密度の違いたるや！

実際には願いが叶ったわけではないのですが、ありありと思い描いたその3日間は、心の中で現実化され、ある種の体感を伴ったに違いありません。

自分ではどうすることもできない状況に陥った時に、そのことを憂い嘆くばかりでなく、このような美しい心を持てるかどうか、それまでの生き方、心の持ち方にかかっていますね。

今日1日、ポーっと生きてるわけにはいきません。

~~~~~

< 編集後記 >

仙台市の北部、大和町に七ツ森という七つの小さい山があります。

一番高い山が笹倉山(別名大森山)で約600m、その他は300m~400mくらいの山です。

小さい割には頂上からの眺望が素晴らしいところもあり、市民の人気スポットとなっています。

1つ2つ登るのは小学生でもできるのですが、1日に7つ全部登るとなると、ベテラン登山家でもヒーヒー。

そのヒーヒー全部登山のことを七掛けと言い、大願成就すると言われてしています。

5月12日のブログで七掛けの様子を書かせていただきました。よろしければご笑読くださいませ。

## ハモコミ通信 2019年6月号②

<まちネタその1>

### ◎ ネクタイは何色

Cさんが、とある経営者向けのセミナーに参加した時のことです。

講師が話の途中で突然、「皆さん、ちょっと目を閉じてください」と言ったのです。

全員が目を閉じたのを確認すると、「私が何色のネクタイをしているかわかりますか」と尋ねてきました。

Cさんはまったくわかりませんでした。「では、目を開けてください。はい、もうおわかりですね」と言いました。

その後、「自分が目的意識を持たないと、たとえ目の前に必要な情報があったとしても、捉えることができない」と、説明してくれたのでした。

さらに、「常に自分の目標を紙に書いて毎日復唱するとよい」と話しました。

「求めよ、さらば与えられん」ということの、わかりやすいたとえだと、Cさんはとても感銘を受けました。

それによって肯定的な発想が生まれ、行動する力が漲(みなぎ)ってきます。

Cさんは目標を、スマートフォンのメモ機能に記録していましたが、見返すことは稀(まれ)でした。

以後Cさんは、スマホや紙に書いた目標を毎朝必ず読み返し、その達成に必要な情報や気づきを実行に移しています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

どんなアンテナを立てるか、そしてどれほど強くそれを思うか、それによって引き寄せるモノと程度が変わってきますね。

私もむかしはCさんのように、目標を立てた

はいいが、ほとんど気にしないようなやり方をしていました。

古い資料を整理した時、その実態に気づき、赤面しました(笑)。

常に心に留め置く自分なりの仕組みをいち早く確立すると、それ以降、心配なくそこに向かって邁進できると思います。

<まちネタその2>

### ◎ 自然からのメッセージ

M氏は、1年前に西日本豪雨を体験しました。

自然の猛威に為すすべもなく、人間の無力さに苛(さいな)まれました。

自然災害による被害の大きさに、人間の生活の在り方が影響されていることを改めて考えた時、M氏には気になることがありました。

山頂付近の会社に通う際に、山間(やまあい)の沢に投げ込まれた、ゴミの山を目にしていたからです。

そして、無造作に投げ捨てられたゴミを《1日1回、捨てるだけ捨おう》と、一念発起(いちねんぼっき)したのでした。

始めて間もない頃は、捨っても捨ってもゴミが減らない途方もない作業に、捨てた人間への憤りを感じていました。

ところが、ある頃から、捨てられたゴミが「ありがとう」と、語りかけてくるような感慨(かんがい)を覚えたのです。

ゴミが減り美しくなっていく環境と、朝から大自然の中で作業することにより、爽快な気持ちで出社できるようになったのでした。

今では、ゴミ拾いは、景観を保つための「護(ご)・美(み)」拾いであり、幸せを拾わせていただく自然からのメッセージだと思えてくるのでした。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

山の中に捨てられたゴミは、街中のそれとは規模が違いますね。

袋ごと、大型のもの、あり得ないようなものまであったことでしょう。

ああいうのは本当に心が痛みますが、それを1日1回捨てるやろう、という意気込みがすごいですね。

拾ったゴミから感謝されるなんて、常識では考えられませんが、実践した人にしか感じられない特別ご褒美的なものなのでしょう。

環境を美しく整えると、こちらの気分がよくなるっていうのはよくわかりますね。見習いたいものです。

#### < おすすめ講演会情報 >

仙台近郊にお住まいの方にとっておきのお知らせです。

#### ★ 1日5秒でできる成功ワーク ~レノンリー氏講演会~ ★

武学を極められたレノンリー氏。

武学とは一言で言うと何ですか？ というインタビューに対し、次のように答えていらっしゃいます。

「相手を倒すとか倒さないとか、そういうものではないのです。

世の中がどうやったら戦いが起きず丸く収まるか、というのが武学の『武』であり、『学』は『知行合一』。

つまり、知っていることとやっていることを一致させること」

なるほど、それってまるで倫理法人会で学んでいることそのままだ、と思ったら、リー氏も横浜青葉区倫理法人会の会員として10年以上倫理を学んでいらっしゃる方でした。

リー氏は武学を身につける過程で、「より善い世の中を創る」ために「持っている智慧を楽しく伝え人を育てる」ことが自分の目的であることを確信し、そこに向かって修行を続けてこられました。

この目的発見の話は、コラム「ネクタイは何色」と共通しています。

YOUTUBEでリー氏の動画を観ることができますので、お名前前で検索してみてください。

そして興味を持たれた方はぜひ私にお声がけくださいませ。

#### ○仙台広瀬倫理法人会特別イブニングセミナー

「1日5秒で人生も経営も大きく飛躍させる成功ワーク」

1日5秒？ たったの5秒で成功？ ほんと？

5秒のボディワークで既に自分の身体にある答えを思い出すというところが肝のようです。

- ・自分の身体に秘められた38億年の叡智を知りたい
  - ・自分だけのオリジナルの成功法則を知りたい
  - ・自分や自社の理念を持ちたい
  - ・ブレない自分軸を作りたい
- そんな方におすすめです！

#### ◆ 日時 7月1日(月)

第一部(18:30~20:00): 講演会とボディワーク

第二部(20:00~21:00): 講師を囲んで懇親会

#### ◆ 場所 アエル6Fセミナールーム

仙台市青葉区中央1-3-1

◆ 参加費: 3000円(第一部・第二部セット、軽食ドリンク付)

◆ 講師: レノンリー氏(一般社団法人国際徳育協会 最高顧問)

幼少の頃のいじめや差別が起因となり武学を学ぶ。

ビルゲイツ氏の師匠ジョン・マックスウェル氏(世界一の呼び声が高い経営コンサルタント)のセミナーでも講演を実施。

さらに、中国トップ経営者ロッキー・リャン氏とのコラボ、「ユダヤ人大富豪の教え」の本田健氏とのコラボなどなど、延べ数千人の人々へ講演活動を続けている。

ジャッキー・チェン氏の映画依頼や新聞、雑誌、市報、専門誌、ラジオ、TV、各種メディアに出演。

倫理法人会、感動塾、幸塾、中小企業家同友会、国際青年会議所、100校以上の小~大学の行政・教育機関等の各界指導者へ卓越した指導法を世界中で伝授する。

著書「38億年の叡智とつながる・未来を開く5秒の習慣」、「人生を大きく飛躍させる『成功ワーク』」

#### ◆ お申し込み方法

このメールに返信で、7月1日イブニングセミナー参加の旨、お名前、電話番号、所属等をお知らせください。

またはコチラへ↓↓

メール:hirose@rinri-miyagi.com (仙台広瀬倫理法人会事務局)

電話:022-217-0057 FAX:022-217-0115

※残念ながらその日は都合が悪いという方は、翌日朝6時~7時のモーニングセミナーでも話を聞くことができます(無料)。

~~~~~

< 編集後記 >

義理の母のところへ怪しい人物がやってきた、という話を聞き、ALSOKさんに頼んで映像記録のとれるインターフォンをつけてもらいました。

思ったより安くて安心が得られてとても良かったです。

ちょっと前ならできなかったこと、あるいは非常に高額だったものが、今どきは実に安く手に入るものですね。ありがたいです。

ハモコミ通信 2019年7月号②

< まちネタその1 >

◎ 誰にでもできる仕事

「下足番を命じられたら、日本一の下足番になってみる。そうしたら、誰も君を下足番にしておかぬ」

これは、阪急電鉄の創設者・小林一三氏の言葉です。

皆さんは、仕事の内容によって、やる気が常に変化してはいませんか。

仕事には、誰にでもできる仕事、技術や知識が必要な仕事、その人にしかできない仕事など様々にあります。

中でも、誰にでもできる仕事を任せられた時こそ、腕の見せ所です。

《自分はこの程度しか評価されていないのか》と、腐ったりするのではなく、与えられた仕事に全力を注(そそ)ぎ、とことん成果を追求してみる事です。

さらに、《どうしたら効率よくできるか、どうしたらもっと喜んでもらえるか》など、自分なりの創意工夫をしてみましょう。

思考を重ね、その仕事を極めていく時に自己の大きな成長が生まれます。

人は見ていないようで見ているものです。

今の積み重ねが、必ず将来、実を結んでいくことでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

< コメント >

「目の前のことをしっかりやると、次の役割が与えられる」といった表現はよく聞きますが、さすが小林一三氏は表現が違いますね。

小林氏の言葉のほうが、より心に響くと思います。

仕事に対する創意工夫の姿勢とその積み重ねはその人の財産であり、周りが放っておかない、というのは間違いありませんね。

ニュアンスは違いますが、以下のことを社員に伝えたことがあります。

「うちの会社の仕事は大きく分けて以下の4種類です。

①お客様(の会社)自身でもできるが、手間暇を省きたい、或いは依頼した方が、より安くより早くできる仕事

②他社でもほぼ同様の内容を同程度の価格と納期でできる仕事

③総合的にみて弊社が上回っている仕事

④弊社しかできない仕事

③④は理想かもしれないが、①②の仕事をわざわざ弊社に依頼してくれるのは、なんとありがたいことではないか。

③④の割合を増やす努力と同時に、①②の仕事がいただけることにも感謝していきましょう」

< まちネタその2 >

◎ 笑顔をキャッチ

フォトグラファーのKさんは、講演家の依頼で、セミナーや講演会の専属カメラマンを務めています。

Kさんによると、聴衆の笑顔は、2秒から3秒程度ですぐ元の顔に戻ってしまうそうです。

笑顔の一瞬を捉えるためには、①集中すること、②自分の存在感を消すこと、③笑顔になる瞬間を見極めること、と言います。

舞台から、観客の笑顔を狙う際には、自分が目立たないように工夫を凝らします。

講演を邪魔することなく、舞台上で5分程度まったく動かず、自らを会場に溶け込ませることに集中するのです。

会場内と一体になった後は、講演内容に耳を傾けながら、笑顔になる表情筋の動きを逃さずにシャッターを切ります。

カメラの液晶モニターに、聴衆の満面の笑みが映っているのを確認して、仕事が完了します。

仕事を完遂させるためには、集中力が必要です。

Kさんにとっては、聴衆の最高の笑顔を撮るといふ情熱が、集中力を高めさせる力の元といえるでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

言われてみると確かにそうですね。

笑顔の寿命は2～3秒！

10年前に仙台ゾウ・プロジェクトというものに取り組んだ時のこと。

(その節お世話になった皆さん、ありがとうございました！)

イベントに際し、プロのカメラマンにスナップ写真をお願いしました。

どんな写真を撮ってほしいというリクエストはしませんでした。スタッフの溢れんばかりの笑顔をとくさん撮ってくれました。

例えば、ゾウが会場に到着し、専用トレーラーから降り立つ瞬間、多くの素人カメラマンはゾウの写真をいっぱい撮ります。

プロは違っていました。

ゾウが降り立つ瞬間を心待ちにしていたスタッフの期待と感動を次々捉えていたのです！

一瞬に集中する！

職種にもよるでしょうが、そういう張り詰めた緊張感が良いものを産んでいくのは間違いのないことでしょう。

~~~~~

#### < 編集後記 >

何かの折にいただいたガーベラの鉢。

いただいたときは花が咲いていましたが、その後、植え替えて水やり3年、ついにまた咲いてくれました！

しばらく葉っぱばかりが豊かになり、花は咲かないのかなあ、と思っていましたが、いや～、感動です。

## ハモコミ通信 2019年8月号②

### <まちネタその1>

### ◎ 大変なこと

職場で業務をしている時、《 大変だな 》と思うことはないでしょうか。

例えば、自分の能力を超えているような業務を任された時や、定型の業務の中に期日指定のイレギュラーな仕事が飛び込んできた時などです。

そのような時Aさんは、次のように意識的にポジティブな捉え方をするようにしています。

「人の顔は前を向いている。目も鼻も耳も口もすべて前からの情報をキャッチして、前に情報を発信するのに適している。手も前での作業がしやすい」

さらに「足は前への歩行が適している。命のつながりの痕跡(こんせき)であるへそも前を向いている」と思うようにしています。

そう捉えると視点が変わるといいます。

《 大変は、『大』きく『変』わるチャンスだ。これで向上できる、果敢(かかん)にチャレンジできる思考回路がよく働き、創意工夫やアイデアもよく浮かぶ 》 といえます。

日頃からポジティブになれる自分なりの工夫をしてみてもいかがでしょうか。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <コメント>

大変は大きく変わるチャンス！いいフレーズですね。

「今、大変だと思っていることあるかな？」と自問してみると、膝が痛いことに意識がかなり集中しているなあ、と気づきました。

9月のハーフマラソン大会に間に合うかなあ、などと心配していましたが、これが「大きく変わるチャンスだとすれば？」

！

ひらめきました(笑)。

さて、話を戻します。

私たち人間の体のつくりを、このように捉えるのは面白いですね。

人の手は動物の四つ足と違って、手前に引き寄せるだけでなく、向うに押し出すこともできることから、人は何かを得ようというだけでなく、他人のために差し出す・分け与える、という愛を示すことができる生き物である、というのを聞いたことがあります。

道具であれば「つくり」と目的はもちろん一致しています。

人の体だって、合致していると考えた方がよさそうですね。

事実は1つ、感じ方捉え方は無限。

せつかくですからいい方向に捉えていきましょう。

<まちネタその2>

## ◎「一つ」に向かって

9月20日から11月2日にかけて、アジア地域では初めての「ラグビーワールドカップ」が日本で開催されます。

ラグビーの競技精神として、「One for all, All for one」という英語が広く知られています。

一般的には、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳されていますが、この内容には諸説あるようです。

元ラグビー日本代表監督の故・平尾誠二氏は、後半のoneは「一人」ではなく「勝利」であるとし、「一人はみんなのために、みんなは勝利のためにというのがラグビーでは大切だ」と訴えていたそうです。

これを仕事に置き換えた時、後半のoneは会社の目的、または目的を実現するための目標と捉え

ることができるでしょう。

一人ひとりの技術や発想、能力は、一つの方向性を共有すると、ますます力を発揮し得るものです。

世界レベルのラグビーの試合を観戦する中で、自社の目標や社内での自分の役割について考えるきっかけを得たいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

平尾氏の解釈は、その道をまい進してきた人ならではの鋭い切れ味がありますね。

勝利を目指してそれぞれのいいものを光らせて一致してぶつかり合う。そこでチームは1つになり、やがてノーサイドで相手チームとも1つになる。

弊社の社は「ハーモニーのあるコミュニティづくり」そのものだ！

~~~~~

< 編集後記 >

先日、新婚の息子夫婦が東京から帰省し、それぞれ離れて暮らしている2人の娘も帰ってきて、お父さん手作りのピザ（マルゲリータとクワトロフォルマッジ）を振舞いました。

生地から全部作るのは4回目でしたが、うまくいきました！

秘密は卓上電気ピザ窯。特殊なセラミックプレートを上下のヒーターで石窯のように熱していきます。

のぞき窓からチーズがグツグツ焼けていく様子が眺められるのがとっても気持ちいいのです。焼き芋も焼けますよ。

今年の我が家のマイブームです。

※ 弊社で販売してます(笑)。定価15000円をナント・・・(笑)。

ハモコミ通信 2019年9月号②

<まちネタその1>

◎ 思わぬ出来事

Mさんは、数年前に買った大型のソファを処分することにしました。

二階に置いてあるため、自分一人で降ろすことはできません。

手伝ってくれる人も見当たらず、移動と処分は粗大ごみ処理業者に依頼しました。

作業当日、Mさんは仕事だったため、妻に頼み家を出ました。

その後、妻から、業者が誤ってソファを落としたため壁がへこんだとの電話がありました。

Mさんは、二階から降ろして処分してくれるだけでありがたいと思っていました。業者に電話に出てもらい、誰にも怪我がなかったことを確認しました。

Mさんは、まずはソファを運んでくれたことに対して、お礼の言葉を言ったのです。

そして、壁の修理の件は、後日、話し合うことを伝えました。

どのようなケースでも、業者に落ち度がある際には、請求することは請求して然(しか)るべきでしょう。

大切なことは、不本意な事態に遭った時、感情に左右されず、Mさんのように落ち着いて処置をすることです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

私たちの仕事でも、こちらのミスで心ならずもお客様にご迷惑をおかけすることがあります。

感情的になっても仕方がない場面で、このM氏のような紳士的な態度で対応いただけると、本当に救われる思いです。

弊社のお客様はどちらかというとそういうタイプの方が多く、本当にお客様に恵まれてきたなあ、と感謝しています。

当然、逆の立場になることもあります。

言葉や態度はその人の心が表に出たもの。

心を耕し、心の余裕を持ちたいものです。

<まちネタその2>

◎ 小さな約束

私たちの生活の中には、様々な約束事があります。

例えば、車を運転する場合は道路交通法があり、社内には就業規則や各種規程が存在します。

法的な決まりは、守らなければなりません。しかし、私的な小さな約束は、案外と疎(おろそ)かにしていないでしょうか。

M氏がある日、妻と二人で食事に出かけた時のことです。

何気ない会話の中で突然妻から、「結婚して20年経つけれど、夜ご飯を家で食べるとっておきながら、結局、外で済ませてきたことが何度もあったわよね」と言われたのです。

M氏はこれまで、「家で夕食を食べる」と伝えておきながら、外で食べて帰ることが度々ありました。

《たかが食事の約束くらい……》という安易な思いが、M氏にはあったのです。

公私にかかわらず、約束を破ることは周囲の人や組織に迷惑をかけるだけでなく、時には人間関係の不和にもつながります。

身近な人との小さな約束を忘れてしまったり、守っていなかったことがないか、再確認してみましよう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

ドキッとするコラムです。

私も小さいことほど軽く扱ってしまうクセがありそうです。

本人の自覚が少ないせいで、覚えてもいないようなことだったりします。

M氏の奥様同様、世の奥方というのは、細かいことに至るまで、夫の悪行を、過去の引き出しから自在に引っ張り出す能力がありそうです。

若い頃は、「そんな細かいことを」などと逆ギレし、いちいちカチンときたりしていたのを思い出しました。

年を重ね、少しずつ悪行の反省をできるようになってきたかもしれません。

「まだまだだ」という声も聞こえてきそうではありますが(笑)。

~~~~~

## < 編集後記 >

ほぼ同じ大きさの網戸3枚を、外して掃除して元に戻したところ、開閉がスムーズじゃなくなりました。

震災で窓枠が歪んでしまったのかな？などと、そのままにしていました。

先日改めてその3枚の網戸掃除をして元に戻したところ、1枚だけスムーズに動きました。

ん??

残りの2枚を入れ替えてみたら、スムーズに動きました。

なーんだ、戻す場所が間違っていただけだったのか。

あまりに単純なミスに、震災という勝手な理由をつけて納得して検証もしなかった自分に苦笑しました。

## ハモコミ通信 2019年10号②

### < まちネタその1 >

#### ◎ 頼りになる人

皆さんの身近にいる頼りになる人とは、どのような人でしょうか。

- ①いつも明るく朗らかな人
- ②人の好き嫌いなく、誰にでも同じ態度で接する人
- ③依頼された仕事をサッと処理する人
- ④先を見据えて先手を打つ人
- ⑤何があっても動じない姿勢を貫く人
- ⑥仲間を大切にする人
- ⑦最後まで責任を持って、仕事を仕上げる人

などが当てはまるでしょう。

では、この7つの例のように、頼られる人になるには、具体的にどのような行動をすればよいでしょうか。

- ①は、いつでも明るく元気な挨拶をする
- ②は、人から名前を呼ばれたら、「ハイ」と返事を

する

③は、気づいたことをうやむやにせず、すぐ処理する

④は、集合・待ち合わせ時間の五分前行動を身につける

⑤は、姿勢を正して腹式呼吸を意識する

⑥は、些細な約束も必ず守る

⑦は、整理整頓を心がけて後始末を習慣化する

などがあるでしょう。

何時でも、何処でも、陰日向(かげひなた)のない人になりたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### < コメント >

弊社行動指針は、倫理研究所が推奨している7ACTというものをそのまま採用させていただいてます。

#### 【7ACT】

- ①挨拶が示す人柄、躊躇せず、先手で明るくハッキリと
- ②返事は行為のバロメーター、打てば響く「ハイ」の一言
- ③気づいたことは即行即止、間髪入れずに実行を
- ④先手は勝つ手、5分前、心を整え完全燃焼
- ⑤背筋を伸ばしてあごを引く、姿勢は気力の第一歩
- ⑥友情はルールを守る心から、連帯感を高めよう
- ⑦物の整理は心の整理、感謝を込めて後始末

コラム本文の7要素と完全に一致してますね。それもそのはず、このコラムの出所が同じですから(笑)。

毎日、この7つの行動指針を朝礼時に唱和しております。

### < まちネタその2 >

#### ◎ 言葉の重み

マザー・テレサの名言といわれる一つに、「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから」というものがあります。

「言葉が行動に、行動が習慣に、習慣が性格に、性格が運命になる」と、言葉は続きます。

いついかなる時も、自身の思考が大切なのです。

例えば、人の成功を妬んだり、人の不幸を喜んだりする気持ちが湧いてくることがあるかもしれません。

そのような心はすぐに捨て去るように努めなければ、やがてそれが自分の運命になると、私たちに道を示してくれているのです。

より良い運命を切り開いていくには、自分の思考がネガティブになっていないか、マイナスの言葉が口癖になっていないか、何事も明るく前向きに取り組んでいるかなど、日々チェックしてみるとよいでしょう。

それが習慣化していけば、性格や運命も変わってきます。

自らの思考や言葉の行き先にも意識を向けたいものです。

そういう境地をお互いに目指しましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### <コメント>

「考えていることは、いつか言葉になる」本当にそうだと思います。

不用意な失言を連発する議員さんに必要なアドバイスだ、などと他人事と捉えてはいけませんね。

そういう議員さんの失敗を反面教師として、マザー・テレサの言葉を自分事として省みる必要があるでしょう。

では、自分の心のどういう点に注意すればいいのでしょうか？

ネガティブ思考の具体例ってどんなものでしょうか？

コラムでは、「人の成功を妬む心」「人の不幸を喜ぶ心」をあげています。

他には、「自分には一切非がなく相手にすべて非があるという心」「怒り・責め心」「不足不満の心」「必要以上にせかす心」「どうせダメだ・きつとうまくいかないというあきらめ心」…。

そして、同じネガティブ思考にも100段階くらいのレベル差があると感じています。

例えば、ほんのちょっとしたことで「ダメだ」と

いう気持ちになるというのはわかりやすいのですが、普段はそうではないけど、体調が悪いときはそう思えてくるとか、ちょっとハードルが高くなるとそう思えてくる、とか、誰かと一緒だと大丈夫な気がするけど、一人でやるとなるとダメだと思えてくるなどなど。

ハードルの高さにもたくさんの段階あると考え、軽々越えられる高さを上げていきたいですね。

#### <まちネタその3>

#### ◎ 長い目で見ると

日常に突如訪れるハプニングを「晴天の霹靂(へきれき)」といいます。

昨今では、想定外の日常というものを想定内のこととして捉える必要があるようです。

思考の範疇(はんちゆう)にはない、想定外の出来事に遭遇した際、私たちの多くは心を乱され、前向きな気持ちになることは、難しくなります。

しかし、経験則として理解していることを超越して、想定外の出来事に遭遇することは、自分にとって悪い影響を及ぼすだけとは限りません。

むしろ想定外の出来事は、未来において《あの経験が次のバネになった》《あの出来事がターニングポイントになった》とプラスに捉えられるでしょう。

さらに、苦しみの中にあっても、一歩ずつ着実に困難に向かっていく姿勢と行動力は、想定外の成長を生み出すという自身への贈り物になるかもしれません。

確実な未来の予測は、誰にもできません。

それならば、今現在に訪れる想定外の出来事を、《今の自分に必要なこと》と受けとめましょう。

困難な状況から逃げずに正面から、《ドンと来い》と迎え入れたいものです。

~~~~~

< 編集後記 >

年を重ねるに従い、長い目で見るということは得意になってきました。

そして、目の前で起きていることは自分にとって必要だから起きている、と心から思えます。

しかし、それをそのまま渦中にある人にあてはめて、長い目で見ればいいんだよ、とは言え

ませんね。

渦中にある人に対してはお見舞いの気持ちを寄せるしかありません。

いつなんどき想定外の出来事にさいなまれるか、それはまさに神の領域でしょう。

想定外を想定することは簡単ではありません。

せめてできることは、このコラムで言っている受け止め方を磨くことしかない、改めて感じ入りました。

ハモコミ通信 2019年11号②

<まちネタ>

◎ ラストラン

Aさんが休日の昼間、大きな荷物を持ってタクシーを利用した時のことです。

ドライバーから「こんにちは。どちらまで行きましょうか？」

という、気持ちの良い第一声に迎えられ、「〇〇までお願いします」と答えました。

雑談を交わす中、「今日はこの車の最後でしてね。明日からは新型車に乗り換えるんです」という、ドライバーの発言が気になったAさん。

「新しい車に換わるのは嬉しいことじゃないですか？」と尋ねたところ、「実はこの車は50万キロも走ってくれて、どんな時も一緒に過ごした友人です。別れが名残惜しくて…」というドライバーの話を聞き、Aさんはハッとしました。

自分にも長く愛用し、共に苦勞を乗り越えてきた物が身近にあったからです。

しかし、Aさんはこのドライバーとは違って、感謝の念を疎（おろそ）かにしていた気がしました。

降車時に「ありがとうございました」と声をかけられ、思わず「こちらこそありがとう。愛車とのラストランを楽しんでくださいね」と答えたAさんでした。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

このタクシードライバーさんのように心が温かくて、ていねいに物事に取り組む人が、すべての職業に、そして全国津々浦々にいることは想像できます。

だからこそ日本人は世界から賞賛されていると思います。

ひるがえって自分はどうか？

私自身、物を大切にしている部分とそうでもない部分があるなあ、と改めて思い至りました。

弊社でも、リース期間満了で車を返納する時には、感謝を込めて、洗車と内部の隅々まで掃除をすることは徹底しています。

5年間がんばってくれてありがとう、という気持ちにはなりますが、名残惜しいという域には達していないなあ、と。

そのちょっとした差が心の差なのでしょう。

生かして使う、ということにもっともっと意識を向けなければ、とハッとさせられたコラムでした。

~~~~~

< 編集後記 >

雑誌の対談記事の中に、坂村真民氏の「鈍刀（どんとう）を磨く」という詩が紹介されました。

努力してもなかなか報われないと思っている人には最大の援助の言葉だ、と。

鈍刀をいくら磨いても  
無駄なことだというのが  
何もそんなことばに  
耳を貸す必要はない  
せっせと磨くのだ  
刀は光らないかもしれないが  
磨く本人が変わってくる  
つまり刀がすまぬすまぬと言いながら  
磨く本人を  
光るものにしてくれるのだ  
そこが甚深微妙（じんじんみみょう）の世界だ  
だからせっせと磨くのだ

無駄な努力はない、っていうことですね。  
本当にそうだと思います。

結果はどこからどういうカタチでやってくるかわかりませんが必ず出ると私も信じています。

マザーテレサの言葉にも似たようなものがありますが、こちらは日本的。

人と物とのやりとりのような表現に私たちの伝統文化を感じますね。

## ハモコミ通信 2019年 12号②

<まちネタ>

### ◎ 足元を固める

目の前に「大きな木」と「小さな木」があるとします。

見えない地下にある根は、どういう状態だと思いますか。

根が地中に深く、広く張っている木の幹は太く、枝葉を大きく伸ばします。木の大小は根の深浅に比例するのです。

大きな働きを成している人や、職場の共通点に「見えない部分を大切にすること」があるでしょう。

「お客様がいる時は、しっかりしよう」

「ユーザーが目にする部分はていねいに」

といったような表面を取り繕（つくろ）うだけの仕事は、一次的には成果を上げているように見えます。

しかし、少しの綻（ほころ）びから、瓦解（がかい）する危険性が高いものです。

それに対して、根が深い大樹は強風が吹いても倒れることがないように、見えない部分を大切にすることは永続的な繁栄の基となるのです。

時には「自社の、我が部門の根にあたる仕事は何か」を確認して、地下の根にあたる部分を拡充しつつ、大きな仕事を成し遂げていきたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<コメント>

ズバツと本質を突いたコラムですね。

反論できる人はいないでしょう。

この時期は、コラムにあるように、「何が我が社の根なのか」「何が自分の担務の根なのか」を考えるちょうどいいタイミングです。

さらに一歩進めて、「家庭人としての自分の根は何か」「人生において自分の根は何か」トータルで見つめ直す機会をいただいた感じがしました。

『人間は出逢うべき人には必ず逢える。一瞬遅からず一瞬早からず』

という森信三先生のお言葉は、出合うコラムにも共通して当てはまるような気がします。

ありがたいことです。

~~~~~

< 編集後記 >

平成から令和に元号を変え、確かに社会の空気は変わってきていると感じますが、空を眺め森を見ると、千万年一日のごとく何も変わっていないことに驚きと安心を覚えますね。

今年1年、ハモコミ通信をご愛読いただきまして誠にありがとうございました。

外務省によれば、令和の意味を外国に発信する際は、ビューティフルハーモニーと訳すことに藤一したそうですね。

いよいよハモコミ通信の時代です（笑）。

皆さんから温かい励ましの言葉をいただいておりますので、来年も喜んでこの編集に取り組んでまいります。

どうぞ良い年をお迎えくださいませ。

ありがとうございました。